



中丹教育支援センターだより

京都府立中丹支援学校

令和8年10月

発行

「夏季研修講座」へ御参加いただきありがとうございました。

7月31日(金)、京都府北部特別支援教育夏季研修講座を行いました。ワーキングメモリの第一人者である湯澤正通先生をお迎えし、「ワーキングメモリに弱さをもつ子どもへの学習支援」と題して御講義いただきました。研修会では、ワーキングメモリの理論について御教示いただくとともに、具体的な事例を通して指導方法や支援方法について教えていただきました。また、児童生徒の学習時の躓きを把握するための「学習支援用チェックシート」や、一斉指導におけるワーキングメモリの弱さを補う支援方法について記載された、指導者及び支援者のための「授業チェックリスト」を御紹介いただきました。子ども達の姿を思い浮かべながら話を聞き、今後の指導や支援について「このような工夫が取り入れられるのではないかな。」「このような関わりが有効なのではないかな。」等、具体的なアプローチが芽生えた方も多くいらっしゃったのではないのでしょうか。京都府北部の教育や福祉、医療に携わる200名以上の皆様が学びを共有し、大変有意義な研修となりました。



御参加いただいた皆様からの感想（一部抜粋）

- 幼児期では、絵本の読み聞かせや「わらべうた」等もワーキングメモリが育つために効果的だと分かったので、日々の保育に繋げていきたいです。【保育所（園）/子ども園/幼稚（児）園】
- 「漢字が覚えられない。」等の目に見えている課題だけに支援をするのではなく、その背景に何かあるのかを正しく見取り把握することが大事だと思いました。【小学校】
- 事例を挙げながら、学習支援用チェックシートを用いてのアセスメントから支援方法までが、具体的によく分かりました。脳の黒板の例えがとても分かりやすく、子ども達がどういうことで困っているのかがよく分かりました。【中学校】
- 多面的にアセスメントをして支援を行うことは重要であり、生徒の良さを伸ばすために必要だと実感しました。【高等学校】
- 手立てを考える前に、どこに困っているのかという見立てが大切であることが分かりました。本研修では、ワーキングメモリに課題のある児童生徒の手立てを具体的に教えてくださり、日々の実践に役立てたいと思いました。【特別支援学校】
- ワーキングメモリは脳の中の働きであり、目に見えないので、子どもたちをより正しく理解する視点として、しっかりとっておきたいと思いました。子どもたちに合わせてどうすれば情報を入れることができるのかという視点で支援を考えていきたいと思いました。【療育機関】
- ワーキングメモリとは何か、また私たち自身が言葉や計算などをどのように習得してきたかについて分かりやすく教えていただきました。【行政機関】



「地域開放講座」の案内は裏面へ

気になる行動の背景を読み解く

～子どもの育ちと心の土台づくり～

- 1 子どもの「気になる行動」の背景にある理由を読み解きながら、日々の関わりの工夫について考えます。
- 2 現代の生活環境の変化等も踏まえながら、幼児期から学齢期への移行について考えていきます。
- 3 子どもの「心の土台」を育む関わりについて学びます。

講師： 石原 詩子 先生（京丹波町福祉部健康推進課 作業療法士）

日時： 令和8年 12月25日（金） 13:30～16:30
（受付 13:00～）

場所： 京都府立中丹支援学校

定員： 40名

対象 府北部の保育所（園）・幼稚園・小学校・
中学校・高等学校及び特別支援学校教職員、
福祉及び関係機関等の職員

申込方法： QRコードまたは URL アドレスでお申込みください。



申込締切 11月20日（金）17:00

<https://forms.cloud.microsoft/r/1bBgncJmHR>

みなさんの、 もっと「知りたい」「学びたい」を大募集！

中丹教育支援センターでは、地域における研修の場として、公開講座を実施しています。子ども達の成長に携わる皆様と、校種や分野を超えてともに学び合える場となるよう、内容の充実に努めてまいります。そこで、より皆様のニーズに応じた研修を実施できるよう、研修に関するご意見を募集します。

どんどん、皆様の「学びたい！」をお寄せください！

*アンケートは、右記 QR コードまたは URL よりご回答ください。

*回答時間は、約1分です

<https://forms.cloud.microsoft/r/E5as6bby4q>

